

## 編集委員会便り

地球温暖化防止に不可欠な省エネルギーのための色々なすばらしいアイデアや手法が考え出されても、最終的にはそれらがビジネスとしても実行されていかなければ意味がない。勸省エネルギーセンター (ECCJ) と全米エネルギーサービス事業協会 (NAESCO) は、昨年10月「日本における省エネルギーとESCO事業の推進」に関するワークショップを開催した。その会議での共同声明として、「ESCO事業は産業・民間部門を対象とした省エネルギーをビジネスベースで推進するための極めて有効な手法である」と謳っている。

昨年11月アメリカのアリゾナ州フェニックスで開催されたNAESCOの年次総会に筆者も出席する機会を得たが、我が国からはECCJの森信昭前専務理事を団長とする調査団が参加しておられ、団員の働住環境計画研究所中上英俊所長の御協力も得て企画したのが本号の特集である。この場を借りて両氏に厚くお礼を申し述べたい。また、この特集号の中にNAESCOの活動状況に関する寄稿をカリフォルニア大学のG. A.

Goldman氏から入手できたのは幸いであったが、筆者の研究室の斯波敬氏がたまたまアメリカ留学中ということもあって邦訳の労をお願いした。お礼を申し述べたい。なお、本学会としては今年の10月に企画委員会で「エネルギーサービス事業 (ESCO) とそれを支える省エネルギー技術」と題した講習会を東京で開催した。

来年、当学会もいよいよ誕生して20周年、すなわち人間で例えればいよいよ成人式という記念すべき年を迎える。また、21世紀という千年に一度しか体験できない幕引きの時も近付いてきた。このような中でエネルギー・資源という全人类的な課題に当学会はチャレンジしている訳であるが、編集委員の一人としてもその責務の重大さを強く感じる昨今である。会員諸賢からのより一層の御支援をいただくことを念じつつペンを置きたい。

伊 東 弘 一

(大阪府立大学工学部エネルギー機械工学科教授)

協賛行事ごあんない

### 「第28回ガスタービンセミナー」について

〔主 催〕 ㈱日本ガスタービン学会  
 〔協 賛〕 火力原子力発電技術協会, 電気学会 他  
 〔日 時〕 平成12年1月20日(木)・21日(金)  
 〔場 所〕 東京ガス(株)本社2階大会議室  
 (港区海岸1-5-20, TEL 03-3433-2111)  
 〔テーマ〕 「21世紀を担うガスタービンを目指して」

〔申込先〕 ㈱日本ガスタービン学会  
 〒160-0023 東京都新宿区西新宿7-5-13-402  
 TEL 03-3365-0095 FAX 03-3365-0387  
 ホームページ  
<http://wwwsoc.nacsis.ac.jp/gtsi/>